

序

このたび、臨床栄養学実習書を上市することとなりました。

臨床栄養学は、疾病者の栄養管理方法を学ぶことに視点が置かれています。この100年で日本人の寿命は約2倍に延びました。健やかな人生を過ごすために、食事や運動といった日々の生活習慣に留意することで生活習慣病のリスクが低下します。しかし、現実では生活習慣病に関連した疾病も多く、重症化予防に関する知識や技能も必要です。

管理栄養士・栄養士は、「栄養の指導」を行うことで健康の維持・増進や疾病の予防・治療・重症化予防、介護予防・虚弱支援などを担う医療職です。つまり、臨床栄養学に関連する専門的な知識や技能が必要とされます。特別の栄養管理が必要な特定給食施設では、管理栄養士の配置が健康増進法により定められています。

さらに、疾病者の栄養管理については、診療報酬の変遷からもわかるようにその重要性がますます認識され、さまざまな医療職種に浸透してきています。これからの管理栄養士・栄養士は、保健・医療・福祉の専門職と連携して、対象者に適切な栄養管理ができる能力を身につけることが必要です。

最近では、リハビリテーション分野で活躍する理学療法士や作業療法士の養成カリキュラムに栄養学が入りましたので、この分野では今まで以上に栄養管理が進展することが期待されます。日本老年歯科医学会でも『「歯科医師と管理栄養士と一緒に仕事をするために」学会の立場表明』（2018年）を行い、お互いに専門分野の理解を深め、多職種連携の有効性を高めようとしています。口腔健康管理の不良や口腔機能低下による栄養状態悪化予防のために、ますます管理栄養士・栄養士は必要とされるでしょう。

臨床栄養学で扱う疾患は幅広く、各疾患の治療指針やガイドラインは新たな知見を盛り込みながら改訂がなされており、本書においては、出版時点で必要と考えられる最新の内容を盛り込みました。

本書は、学生の臨床栄養学の実践力がつくように、臨床栄養学の知識の確認を行った後、その内容の関連実習を記載しています。また、執筆者も、病院に勤務する管理栄養士をはじめ、医師、歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの医療職に参画していただき、臨床現場からみた実践に必要な栄養管理について身につくように構成されています。そのため、臨地実習にも十分に対応できる内容になっていると思っています。

本シリーズの特徴である、イラストレイテッド (illustrated) は図解入りの教科書ですので、各所でのイメージがしやすく理解が進むように工夫されています。末筆ながら、本書の出版に際して、羊土社編集部の田頭みなみ氏、中川由香氏をはじめ、関係者の方々の多大なるご協力のおかげで出版できましたことを深く感謝いたします。

2022年10月

執筆者を代表して
栢下 淳